

## 令和3年産水稻の作付面積及び予想収穫量 (9月25日現在)(山形)

— 主食用作付見込面積は5万4,900ha、10a当たり予想収量は628kgの見込み —

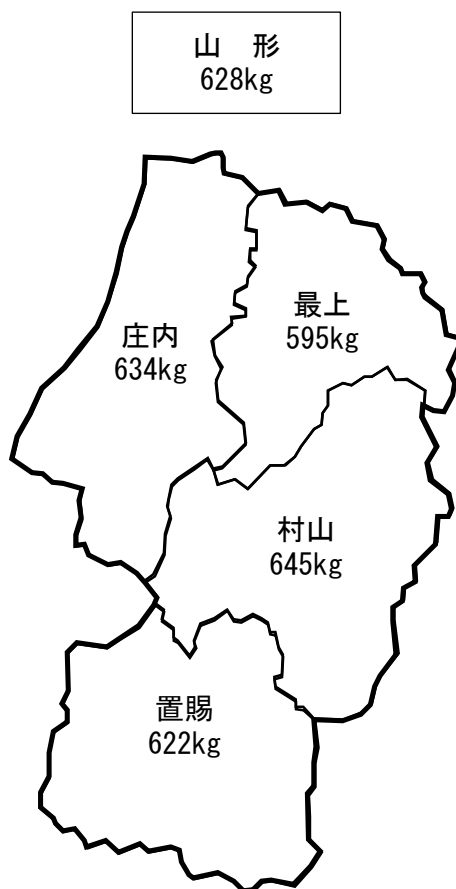
1 令和3年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)は6万8,500haで、前年産に比べ300haの減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は5万4,900haで、前年産に比べ1,600haの減少が見込まれる。

2 9月25日現在における水稻の作柄は、全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)が平年を上回って確保され、登熟(開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実)もおおむね順調に推移しているとみられることから、10a当たり予想収量は628kgが見込まれる。

また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は104の「やや良」が見込まれる。

3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は34万4,800tで、前年産に比べ6,600tの減少が見込まれる。

図 作柄表示地帯別10a当たり  
予想収量(9月25日現在)



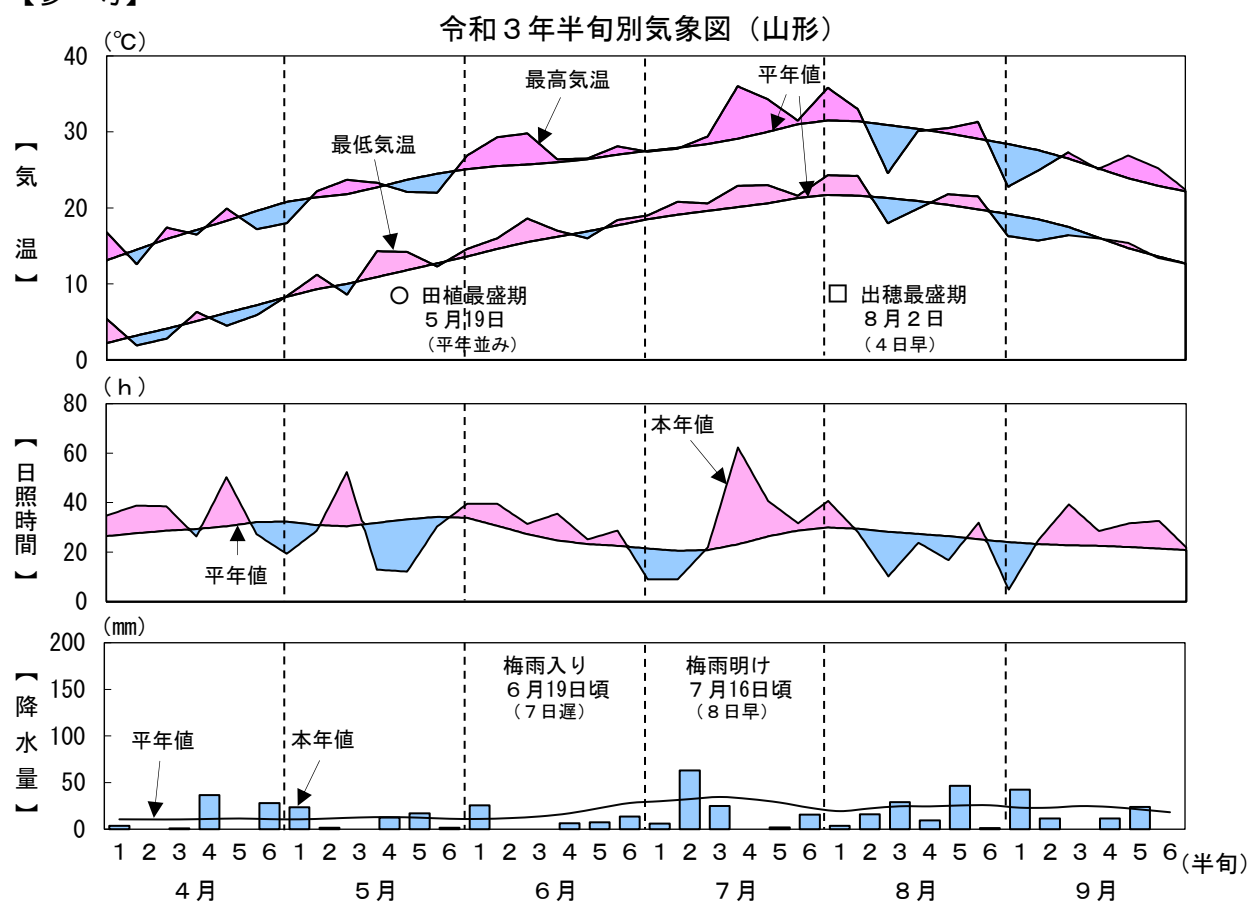
- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。 ) から、新規需要米(飼料用米を含む。 )、備蓄米、加工用米等の作付面積(9月15日現在)を除いた面積(見込み)である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 作況指数は、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅(山形県は1.90mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 本調査(9月25日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

表 令和3年産水稻の10a当たり予想収量及び作柄概況（9月25日現在）

区 分	10a 当たり 予想収量 ①	農家等が使用している ふるい目幅で選別			作柄概況（平年比較）			
		10a 当たり 予想収量 ②	10a 当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④=②/③	穂数の多少	1穂当たり もみ数の 多 少	全もみ数 の 多 少	登熟の良否
山 形	kg 628	kg 592	kg 568	104	やや多い	平年並み	やや多い	やや良
村 山	645	605	580	104	やや多い	平年並み	やや多い	やや良
最 上	595	564	548	103	やや多い	やや少ない	やや多い	やや良
置 賜	622	587	574	102	やや多い	平年並み	やや多い	やや良
庄 内	634	598	567	105	多 しい	平年並み	多 しい	平年並み

注：1 ①10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
 2 ②10a 当たり予想収量、③10a 当たり平年収量及び④作況指数については、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（山形県は1.90mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。  
 3 作柄概況（平年比較）に用いた表示区分は、「多い（良）」が106%以上、「やや多い（やや良）」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや少ない（やや不良）」が98～95%、「少ない（不良）」が94%以下に相当する。

【参 考】



資料：気象庁ホームページ

注：1 「○」は田植最盛期、「□」は出穂最盛期を示している。  
 2 田植期及び出穂期の最盛期は、県平均の期日である。  
 3 ( ) 内の日数の遅速は、対平年差である。

お問合せ先

東北農政局 山形県拠点 統計チーム  
 電 話：023-622-7276 (直通) 内線 344  
 F A X：023-622-7294